

報告事項（3）交通空白地対策の取組みについて

- 1 市内における交通空白地の現況
  - 一定の居住者があり、カバーされていない地域
  - (1) 塩津地区の北部
  - (2) 蒲郡北部地区

(蒲郡市地域公共交通計画から抜粋)



- 2 取組みの検討状況
  - (1) 塩津地区の北部
 

西部地区みかんの丘ぐるりんバスを柏原町まで延ばすことについて、西部地区公共交通協議会において提案・承認されており、現在停留所設置箇所等について、検討調整中。
  - (2) 蒲郡北部地区
 

デマンド型交通の実証実験による実施を検討中。

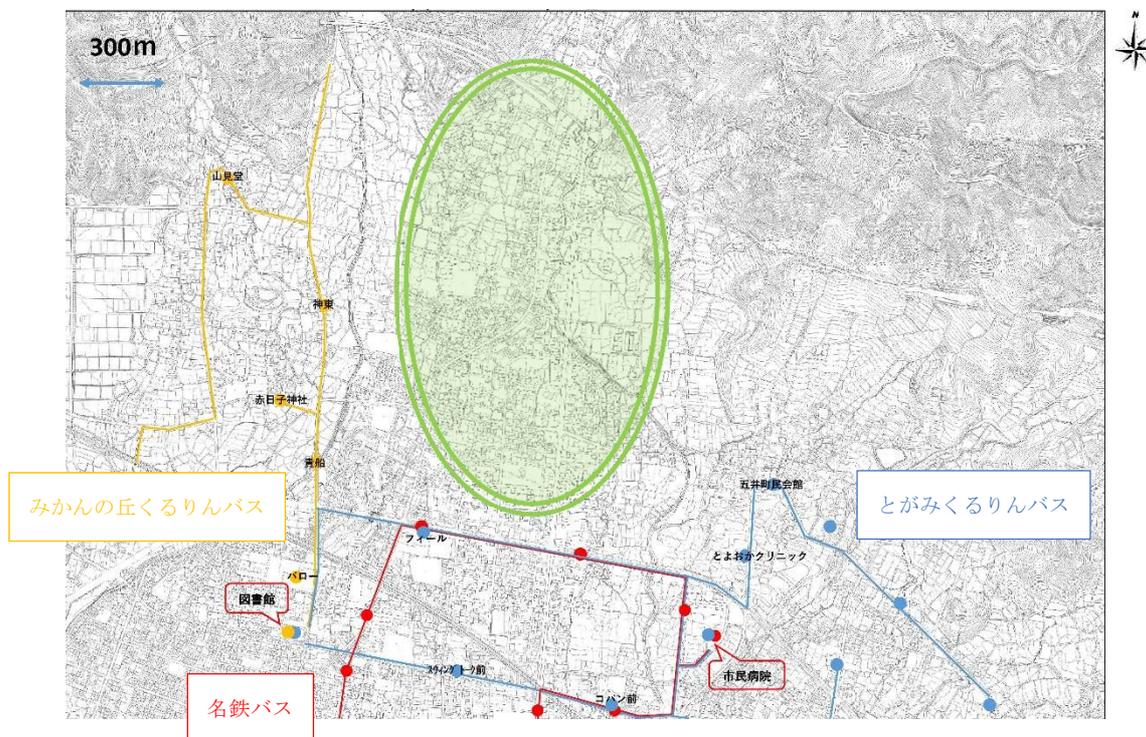
◆デマンド型とする理由、目的についての検討

蒲郡北部地区の交通空白地の解消に向けて、①既存路線の延伸、②定時定路線、③デマンド型が考えられる。

- ①交通空白地が南北に距離があるため、延伸ではカバーしきれず現実的でない。また、延伸元となる路線の地区協議会での承認が得られなければ進められない。
- ②定時定路線の交通を将来に向かって維持・発展していくためには地域協議組織が不可欠。加えて、鉄道駅や南方面の主要な目的地となる施設については既存の交通が運行しており、地区内の移動を主とする従来の定時定路線利用の需要に比べて、既存交通への乗り継ぎ手段としての検討が効果的と考えられる。
- ③蒲郡北部地区の人口規模等から想定される利用者数に対しては、乗用タクシー車両の活用を含めたデマンド型の検討により費用を節減できると考えられる。また、乗り継ぎの利便を図るなどの利用方法等の設定によって、既存路線を活かした移動の確保が可能と考えられる。

上記の検討状況から、目指す方向性について次のとおり考える。

- (1) 地区内の移動より既存路線への接続に重点を置く
- (2) 既存路線への乗り継ぎの利便性を図る



今後、運行形態、運行車両、停留所、運賃、利用方法等について、交通事業者からの意見聞き取り、また地域住民からの意見を参考に、実施に向け内容を詰めた上で、改めて公共交通会議で協議・承認をいただき進めたい。

実証実験として実施する中で、見直し・改善については柔軟に検討していく。